

音楽ホール関連シンポジウム開催結果

1. 開催概要

(1)趣旨

- 複合施設の検討を進めるにあたり、市民とともにより良い施設のあり方を考えるべく、音楽ホールに焦点を当てたシンポジウムを開催した。
- 劇場計画研究者、音響コンサルタント、指揮者という3つの異なる分野の専門家の話を通じ、ホールという空間や文化芸術が持つ多面的で奥深い魅力を把握する。

(2)開催

- 名称 音楽ホール関連シンポジウム「ホールの楽しみ～『響き』を巡って～」
- 日時 令和5年2月4日(土) 14時から16時30分
- 会場 エル・パーク仙台 ギャラリーホール
※動画の同時配信を実施 (YouTube 現在も視聴可能)
<https://www.city.sendai.jp/bunkashinko/gakuto/symposium.html>
- 当日来場者 101人 配信視聴者数 223人 (2月末日現在)

(3)プログラム

①報告

音楽ホールの検討状況について 仙台市

②基調講演

「社会とともに変化するホール」	劇場計画研究者	本杉 省三 氏 (日本大学名誉教授)
「ホールの音響を設計するとは」	音響コンサルタント	小口 恵司 氏 (株)永田音響設計 代表取締役社長
「指揮者からみたホール、音楽を届けるとは」	指揮者	広上 淳一 氏

③パネルディスカッション

パネリスト3人によるディスカッション 進行 本杉 省三 氏

④質疑応答

2. シンポジウム要点

(1)基調講演

■「社会とともに変化するホール」 劇場計画研究者 本杉 省三 氏

歴史的な社会状況の変化が劇場・ホールのあり方、その発展に大きな影響を与えてきた経緯を踏まえ、これからの時代に求められる劇場・ホールのあり方を提起いただいた。

- 劇場・ホールは社会の変化とともに変化してきており、時代や地域によって多様であることを認識する必要がある。
- 例えば、宮廷劇場のように上流階級のために造られた空間から、市民社会の成立とともに特定の階級の為ではなく、幅広い市民を迎え入れ、交流できるホワイエ等パブリックな空間を持ち、音楽と市民が直接向き合って感動を呼び起こす空間

に変化してきた。

- 多目的ホールに対する批判があるが、多目的そのものが悪いのではなく、建築的な計画や運営的検討が十分になされないで作られたことがそのような評価の原因ではないか。1961年に造られた東京文化会館は多目的であるが、今日においても、世界に誇りうる日本を代表するホールとして機能している。手本とすべき施設ではないか。
- これからの劇場を考える上で重要なのは、広場としての劇場の考え方である。「劇場を必要とする人は、劇場に来ていない人である」との認識から、まちに開かれ、みんなが訪れ、多様な楽しみ方ができる施設となることが求められる。

■「ホールの音響を設計するとは」

音響コンサルタント 小口 恵司 氏

音響設計の歴史や理論などを踏まえ、音響とはなにか、良い響きとはなにか、音楽を楽しむ上での響きをどう考えるか、さらに新たな多機能ホールへの示唆をいただいた。

- 劇場・ホールの歴史は紀元前からあるが、響きの研究が本格的になされたのは1900年以降、まだ百数十年の歴史しかない。今日、一般に響きが良いといわれる欧州のホールなどはそれ以前に造られたものも多い。偶然できたもので優れたものが時代を超えて残ってきたといえる。音響設計としては、親密性、豊かさ、明瞭性を適切なバランスで実現するために、室の形状、室の内装仕上げなどを検討し、設計につなげている。
- 多目的ホールの課題も明確になってきており、解決が可能であり、さらに新たな可能性を持った多機能ホールに向けて、検討していくべきである。
- 響きが良いと感じる要因は非常に複雑であり、味の好みのように一人ひとり異なる。例えば、残響時間のような一つの指標で示されるものではない。そのような数値や評判などに惑わされずに、与件を持たずに、演奏そのものを楽しんでもらいたい。
- ホールの音響設計では、模型の作成やコンピュータによる解析などを行うが、それだけではなく、開場したホールで実際に多様な演奏を聴き、自分達が検討してきたことを検証し、その結果を設計に生かしていくことが大切であると考えている。

■「指揮者からみたホール、音楽を届けるとは」

指揮者 広上 淳一 氏

指揮者としての具体的な経験からのホールのあり方への示唆、本市の可能性を一層高め、新しい都市づくりに発展させていく施設づくりができるといった力強い応援をいただいた。

- 仙台フィルハーモニー管弦楽団は世界クラスのオーケストラであり、国際音楽コンクールも世界のトップレベルのコンクールとなっている。やっと動いてくれたかという感はあるが、芸術の都として集いの施設ができること、本当によかったと喜びを持っている。
- 世界の著名な音楽家や指揮者が音響設計やホールを造って欲しいとき、第一に日本人の名前、日本の会社がオファーされる。日本のホールの音響などは世界的に見てもどの国よりも高いレベルにある。
- ホームタウンのホールであれば十分に分かっているが、客演する場合にはホールで練習するなかで特性を把握する。音響が素晴らしいといわれるホールでもそ

れぞれに特性があり、それを自分の耳と体験から判断し、目の前にいるオーケストラの特徴をうまく捕まえて、そのホールでの演奏、音響の作り方をします。そうして音楽を届けている。

- クラシック音楽の客は減っているという現実があり、すべての世代の人たちに音楽を認識してもらう努力をしなければならない。ホールだけではない色々な施設があって、様々な人が常に遊びに来たり、集えたり、楽しめるような空間を合わせて造らないと、これからの音楽ホールは難しい。
- クラシック音楽を含めて音楽というものに規制はない、すべての音楽を平等に、自由に、気軽に楽しんでもらうことが大切である。新たなホールがそのような場となることを期待し、応援していきたい。

(2) パネルディスカッションから

- ホールや楽器は素人にもどんどん使わせて欲しい。良い施設、良い楽器を一般の人が使えることが文化の大事な根本である。一般の人たちに開放していくことで、発展し、市民が馴染んでいく。それによって市民が支えていこうという意識が創られていく。
- 広瀬川を越えたら遠い、都心とは離れるといった発想を捨て、広瀬川を都市の中心と考え、青葉山エリアと都心部を一体として文化の発展につなげることが大切である。
- コンサート、オペラ・バレエなどができる多機能なホールではなく、専用ホールが欲しいという声もあろうが、従来の多目的ホールとは異なる新しいホールを目指すとともに、様々な人が集まる広場としてのホール、青葉山エリアとしての活性化など、中長期に仙台を変えていく、これからの時代を創る新しい試みの一環として期待したい。

3. 来場者アンケートに寄せられた複合施設に関する主なご意見

【施設全般について】

- 色々な音楽家が仙台を素通りせず、仙台で演奏・公演したいと思うような施設を望む。
- オーケストラのはじめの一音で涙が出てしまうようなホールに期待する。
- 仙台は国際音楽コンクールやせんくらで世界的な音楽都市になった。それにふさわしいホールを早期に完成させてほしい。
- 合唱コンクールの全国大会が開催できない「楽都」はありえない。早急に整備を望む。
- 「楽都」ということが恥ずかしくないようにしてほしい。
- これまで仙台に本格的な規模のホールがないのを残念に思っていた。一刻も早く完成し、新ホールで演奏が聴けるのを期待している。
- 開館が待ち遠しい。楽しみにしている。
- 本格的で、多くの市民が参加できるホールとなることを望む。
- 100年200年と続くホールを望む。石造りも良い。
- 日常生活の延長線上で利用できる施設、特に子どもたちにとって親しみのある施設を望む。
- 音楽ホールが市民(子どもから大人まで)の身近なものとなる工夫をしてほしい。
- どんな音楽も飲み込んで、吐き出せる、そんな拠点になってほしい。子どもたちに音楽のすば

らしさを伝えられる拠点になってほしい。

- 有識者の声だけでなく、利用する市民の声を広く聞いて、利便性の高い「仙台の顔」となるホールにしてほしい。
- 今の仙台に何が足りないのか、利用者やプロモーターなどの意見を聞いてほしい。
- 単に箱物をつくってよとするのではなく、それを周囲の施設と連携させて地域全体の活性化にどうつなげていくかをよく検討してほしい。
- 音楽は娯楽のひとつなので、ホール周辺の環境として商店街、レストラン、カフェなどがあるべきだと思う。
- 新しいホールが青葉山にできることは新しい仙台のまちづくりになると期待している。
- 青葉山交流広場は音楽堂設置場所として適地と思えなくなった。音楽人口、クラシック人口を増やすためにも、市内中心地が望ましいと感じた。
- 周辺に飲食店のない青葉山エリアに音楽堂は不向きである。市内中心部に設置を希望する。
- 講演で話のあった「広瀬川を中心に」という視点は大切だと思う。青葉山エリアと西公園をまとめて生かしていく視点が必要。
- 音楽を聴いた後、お茶を飲みながら余韻を楽しめるような施設も併せて考えてほしい。
- 街中のホールも大切だが、仙台には「杜のホール」が良いと思う。
- 「文化」による都市のPRにつなげてほしい。
- 隣接する国際センターとの連携により、音楽イベントはもとより大規模なイベントにも利用できると、仙台の文化観光エリアの施設として生きてくるのではないかと思う。
- 震災メモリアルについては、音響などと違って具体的な議論が難しいとは思いますが、これこそ市民と協働して話を進めていってほしい。

【施設設備について】

- 大ホールはクラシック専用ではなく多目的ホールを望む。
- パイプオルガンを入れてほしい。
- イスの幅を広くつくってほしい。
- バックヤードや搬入口、練習場、駐車場についても前向きに検討してほしい。
- トイレと駐車場は十分に整備してほしい。
- レコードやCDを楽しむ部屋があっても良いのではないかと。CDなどを持ち寄って気楽に楽しめる空間を。
- 「雨に濡れずに入れるロータリー式の降車場」、「舞台を撮影するための部屋」、「指揮者の表情を撮影できる舞台後ろの小さな窓(部屋)」などがあると良い。
- 能楽堂も併せて造ってほしい。
- 太陽光発電も使ってほしい。